



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



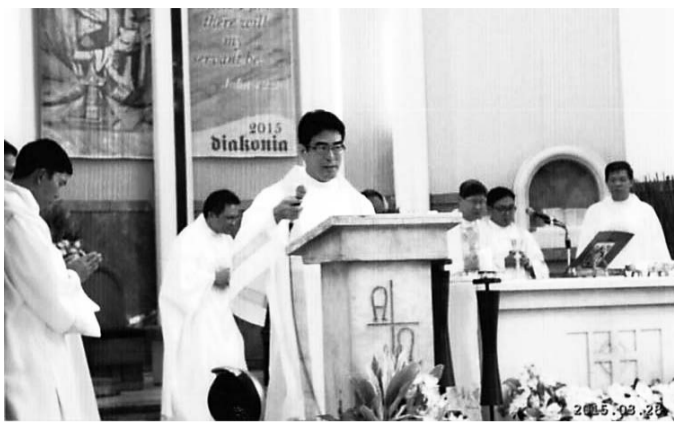
留学先フィリピンで人々に愛されて六年

貴島神学生 マニラで助祭に叙階

鹿兒島教区の貴島丈弥神学生(名瀬聖心教会出身・三十八歳)が、三月二十八日(土)留学先のフィリピンはマニラのサン・カルロス大神学院聖堂で助祭の聖位にあげられた。叙階式には奄美大島から貴島神学生の両親など九人の巡礼団が参列した。

まだ寒さが残る鹿兒島を後に、真夏のフィリピンへ。マニラ空港に降り立った瞬間、暑い微風が肌を撫でていく。何とも言えない感触。久しぶりのフィリピン訪問である。

それも、息抜きの遊び旅



助祭服に身を包んだ貴島助祭

三月二十八日(土)午前九時から、貴島神学生が学ぶサン・カルロス大神学院聖堂で、タグレ枢機卿司式による叙階式が始まった。マニラの各地から、この喜びの式典に集まった司祭たちは約八十人。信徒と修道女は八百人から千人ほど。ただでさえ暑いこの地で、エアコンのない

行ではなく、大げさかもしれないが、鹿兒島教区を代表し、小さいながらも九人の巡礼団で貴島丈弥神学生の助祭叙階式に参加するためであった。短い期間ながらも、とても楽しい、元気の出る巡礼となった。たまに全員が奄美大島からの参加者であったのも、大いに力となった。

神学院の聖堂は、喜びと情熱の溢れからヒートアップ。その中で枢機卿のユーモアある話が暑さを和らげてくれた。

貴島神学生と仲間三人が助祭叙階式に臨み、貴島神学生はしっかりとした英語で、助祭の役務を引き受けた。私自身もその

教皇謁見など教区の現状を報告

アドリミナで郡山司教



教皇フランシスコと握手を交わす郡山司教

三月十九日(木)から二十日(土)までの十日間、アドリミナ(聖座訪問)のため郡山司教は日本司教団とともにローマを訪問した。

アドリミナは五年毎に各国の司教団がローマを訪問し、教皇に謁見してそれが担当する国及び教区の現状を報告するも前回のアドリ

東日本大震災 復興支援担当者会議

四月七日(火)午後、大名町教会(福岡)で、第九回復興支援担当者会議が開かれた。出席は長崎教会管区担当の浜口末男司教他福岡、大分、長崎、那覇、鹿兒島の各教区から計七人。初めに今年一月から三月までの大槌ベースの活動が報告された。二千戸の仮設住宅のうち今も千六百戸が利用されていること、完成した復興公営住宅は四百戸にとどまっていること、公営住宅に移ってからの自

死者も出ていること、支援先の中には自立する動きもあるがまだまだ支援が必要などところが多いことなどが報告された。これからも支援が必要であることを知り、その輪を広げるため、今夏、一仙台教区サポート九州大会」を開催することが決まった。期日は九月二十日(日)午前十時から午後二時まで。会場は大名町教会。ミサ、講演、被災地物産展などが予定されている。被災地の方々との具体的な出会いを通して、ささやかでも復興のための助けとなりまうに。(報告・末吉卓也)

叙階式日程など 新助祭の今後を検討 4月のコンベンツス

四月十三日(月)午後、教区本部で司祭評議会が開かれた。主な議題は次の通り。
①評議員の改選
②今年度の司祭・助祭の役割担当
③貴島助祭とベネディクト助祭の今後について
④レヒナ神父追悼ミサ
⑤その他

島教区にとっても貴重な瞬間、体験をする機会に恵まれた。この度の巡礼ができたことに感謝したい。神に感謝、皆さんに感謝。【四面に関連記事】(報告・小川靖忠神父)

が生じたのだという。ローマに滞在中、郡山司教ら日本の司教団は聖ペトロの墓前でミサをささげたほか、典礼秘蹟省や国務省など教皇庁各省庁を訪問し、ローマとの情報交換に奔走した。また二十一日には教皇フランシスコとの謁見が行われ、郡山司教も日本と鹿兒島教区の現状を報告し、無事帰国した。

訃報

ヨハン・レヒナ神父(レデンプトル会鹿兒島準管区に所属していたヨハン・レヒナ神父が四月七日(火)午後四時過ぎ、入院先のドイツの病院で帰天した。八十歳だった。長年鹿兒島で働いた神父は、ここ数年体調が悪く、今年二月下旬、故郷ドイツに帰国していた。

院していたが四月末退院。今後は教区本部で静養する。
▼四條淳也終身助祭(喜界島担当)は、回復に向かっているがしばらくは神奈川の自宅で療養。(報告・末吉卓也)

司祭・助祭の消息

▼美島春雄神父は体調を崩し鹿兒島市内の病院に入

現代世界憲章シンポジウム

発布50周年にあたって

日時 6月14日(日) 13時30分から16時30分まで
場所 鹿兒島カテドラル・ザビエル教会

※勝谷太治司教(札幌教区)、大塚喜直司教(京都教区)、松浦悟郎(名古屋教区)、ホアン・マシア神父(導入・イエズス会) 郡山健次郎司教(司会) 参加申し込み不要 参加無料

共に信仰を深める会に参加して

キッペス神父の黙想会 感想



キッペス神父を囲んで

○人々が暮らしの中で、困難などに直面し宗教や哲学が自然発生的に生まれたと聞き及んでいます。長い歴史の中で試行錯誤され、魂にまで高められた精神的遺産は、とても貴重なもの、に思えてなりません。しかし、現代に生きる私達は、時代や歴史的な隔たりに、ややもすると拒絶的なものを覚えるのも事実です。黙想会にあずかることによつて、しっかりと教神学に基づいたシンボリックなものでありながら、心や意識の心的過程に焦点をあて、サポートされるながらの心の旅は、時代や歴史、文化の壁を埋めてくれる良い機会となつていきます。宗教という権威が陥りがちな、画一的なものに、人間としての柔軟さ

レデンプトール会のキッペス神父様を囲み、これまで十七年間、溝辺町のマリア山荘で、神父様が毎月書いて伝えて下さる「イエスは友」と題するしおりをもとに、年三回の黙想会の機会を頂いています。まず、溝辺の地に祈りの家が準備されていることに感謝いたします。そして、毎回、快くマリア山荘を貸してくださる坂本神父様と、掃除された部屋と美味しい食事を準備して下さる久保様に感謝いたします。そして、心を込めて信仰を深められるように話して下さるキッペス神父様に感謝いたします。今回は、参加された方々の思いを載せて頂きました。(まとめ役・福沢智子)

(S・M)

や、たおやかさを添えるものでもありません。少人数で進められる黙想会の部屋の片隅に生けられた一輪の花に希望の香を見出すのは、気のせいだけなのでしょう。か…

- ・黙想会の内容の一部
- ・信仰は関係である。イエズスとの関係を育てる。イエズスとの関係を育てる。イエズスとの関係を育てる。
- ・相手を生かせる事にチャレンジしよう。その一つに出会った人にあいさつしよう。そこから、関係が生まれる。イエズスも出かけて行き、出会った人に声をかけている。人を大切にすることである。
- ・日々聖霊と悪霊(善と悪)との戦いである。
- ・残酷な中にも神のはからいが入っている。善が入

つている。自分に対する尊敬があり、周りの人を尊敬できる。(自分を尊敬できないければ、人を尊敬できない)

- ・四旬節を別の言葉で表すと「目標に向かって様々な工夫や努力をしている。」
- ・ヨハネ六章38節「私が天から降ってきたのは、自分の意志を行うためではなく、私をお遣わしになつた方の御心を行うためである。」命を頂いて、今生かされている私は、何のために生きているのか。生かされているのか。生かされているのか。生かされているのか。生かされているのか。
- ・与えられているものを意識しよう。

次回は 七月三十一日(午後六時)八月二日(午後四時半)※一日だけ、二日間の出席もできます。連絡先…〇九〇一一〇八三一九二二三(福沢智子)

鈴木神父のやさしいみ言葉

「塩」と「光」を巡って

マタイ福音書でイエス様は「あなたがたは地の塩である」、「あなたがたは世の光である」と語りますが(五・13・14)、この言葉は「幸い」について語られた山上の説教の直ぐ後に続く言葉であることに留意されなければなりません。ここにマルコ福音書とは異なる「塩」の使われ方があります(二〇一四年三月号参

照)。さて、山上の説教に於ける「幸い」とは非常に逆説的なものであることを皆さんご存知かと思われま

カトリック幼稚園便り⑦

宮之城聖母幼稚園

今月号のカトリック幼稚園便りでは、「保護者の声」をお届けしたい。これは、南日本新聞「ひろば」欄に掲載されたもので、障害を抱えた子供さんを宮之城幼稚園通わせ、この春、無事卒園を迎えたという上村大作さんの息子さんへの愛情、また共に過ごした幼稚園児、そしてスタッフへの感謝が満ちている。

息子の卒園支えていただき感謝

上村 大作
障害を抱えた次男は、母親の深い愛情に包まれ、兄の存在に刺激され、元気に成長した。ハンデイのある息子を育てるのは体力も根気も必要で、しんどさを感じることもあるが、その笑顔を見るだけで、幸せで元気になれる。息子がわが家を選んでこの世に生まれてきてくれて、「ありがとう」という気持ちだ。

皆さんに支えられ、助けってもらったからだ。時には弱音を吐きながら、何度転んでも立ち上がり、笑顔と涙をいっぱい見せてくれた。そんな息子を先生方はいつも温かく見守り、自立を促してくれた。小学校への入学は楽しみでうれしいうれしいが、卒園してもう園に通うことはないかと思うと寂しくて、あの温かさをずっと感じていたいと思う日々でもある。きつと、これからもたくさんの人に支えられて、息子は成長していくことだろう。宮之城聖母幼稚園でかけがえのない時間を共に過ごしてくださった皆さん、ありがとうございました。(さつまつ町)

合同で辞令交付式 聖マリア学園とカトリック大隅学園



教区が幼稚園経営の母体となつている学校法人聖マリア学園とカトリック大隅学園では、三月三十一日(火)教区本部で合同の辞令交付式を実施した。この日、新規採用者は司教から辞令を受け取り、その後はカトリック幼稚園の役員についての講話を聞いた。

得ず、そればかりか近隣の土地にも塩害により作物を育たなくさせてしまっています。また、太陽の光は乾燥した砂漠地帯に生きる人、また旅をする人にとつては生命の危機を及ぼしかねないものです。こうしたことから、塩も光も常に良いものであるとは必ずしも言えないことがわかります。では、イエス様は何を言いたかつたのでしょうか。マタイによればイエス様を信じる者にとって「(イエス様)のためにののしられ、迫害され、見に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき」に幸いなのです(五・11)。この常識では考えられない「幸い」に基づいて塩と光を考

しれません(五・16)。このように風土の違いに基づいて、改めてマタイに於ける「地の塩、世の光」の箇所を読むと考えさせられるものですね(五・13、16)。イエス様を信じて生きる、ということとは現代にあつても非常に難しく、そして苦しいことなのかもしれません。だからこそ私たちに祈ること、ミサに与ること、そして赦しの秘跡に与ることが必要になってくるのです。



八年ぶり合同レクリエーション

奄美大島の五つの小教区が復活の主日に

復活の主日の四月五日(日)、奄美大島の教会の合同レクリエーションが浦上



楽しい一日となりました

教会のグラウンドで行われました。初夏を思わせる暑さのこの日、八年ぶりのこの行事に駆けつけ

てきたのは、大熊、小宿、瀬留、古田町、聖心教会からの老若男女約三百人。久しぶりの対面に「ご復活おめでとう。久しぶり」と笑顔で親睦を深めました。復活祭のレクリエーションを合同で実施するにあたり、一回だけでしたが各小教区から代表者が集まり二時間程度の話し合

いを行いました。そして五小教区で役割分担して運営に臨んだ結果、すべて順調に運びました。

いつも主につながってよう

聖香油ミサで司教がメッセージ

四月一日(水)ザビエル教会で聖香油のミサがささげられた。司教職制定を記念し、聖香油、病者のための油、洗礼志願油を祝別するこのミサは教区ではこれまで聖木曜日にささげられていたが、それでは「離島からの司祭たちの出席が困難」との配慮から初めて、

当日は、各小教区の個性豊かな応援、ゲームにける勝負熱など大変エネルギーッシュで、その大きな声援に選手たちも一生懸命プレイしました。結果は瀬留小教区の優勝。でも参加した子どももから高齢者までが楽しめるゲームで、とても有意義な一

日となりました。夕方になると懇親会に早変わり。信仰と親交を深める場が設けられ、喜びを分かち合う素敵な復活祭の一日となりました。会場を提供してくださった大熊小教区の皆さん、ありがとうございました。(報告・聖心教会 押川尚樹)

司教執務室便り

マリアさまの白ユリ



五月と言えば聖母月。聖母月で思い浮かんだのは「五月のきさきをあめつち歌う、ひととせ巡りてユリ咲く季節」というあの聖歌。口ずさんでいると懐かしさと共にほろ苦い思い出もよみがえった。

小さな峠を越えたところには侍者仲間の同級生が三人もいたので、放課後、よく遊びに行ったものだ。そのうちの一人は叔父さんの家と隣合わせで、裏には段々畑があり、サトウキビやイモが植えてあった。奄美では、自生の白ユリをどこでも目にすることができののだが、友人の叔父さんの芋畑も例外ではなく、季

節になると芋づるの間から白ユリが咲き出すのだ。誰に頼まれたのか記憶にないが、ある時友人と連れ立ってユリの花をとり出かけた。一抱えもとって帰ろうとした時だった。「こらっ、そのユリどうするんだ!」顔を上げると怖い顔の叔父さんが庭先からにらんでいた。「教会に!」どきまぎしながら答えた。信者の叔父さんだけに、教会という言葉に反応された。「あー教会。日曜日ワシが持つていこうと思つていたのだが!」振り上げたこぶしの始末

に困っておられたようだったが、せっかくマリア様に喜んでおらうと思つたのに、横取りされたようで悔しかったのかもしれない。子ども心にも申し訳ない気持ちになつてスゴスゴと芋畑を後にした。あれから六十年。すでに住む人もなく、芋畑も樹木に覆われているに違いない。ところで、聖書の植物の庭ではアーモンドの実が大きさを増し、オリブの花も満開。幹だけだったブドウもツルが伸び、葉も青さを増している。そして、マリア様を覆うように咲いていた黄色の可愛いモッコウバラに代わつて白ユリが出番を待っている。ここを訪れる人々が聖母の執り成しで信仰の花を咲かせるといいのだが。



その前日に実施した。午前十時からささげられたミサには、司教と二十九人の司祭、これに終身助祭四人が加わった。ミサ中説教した郡山司教は、「今日は司祭であることを喜び合う日」と前置きした上で、「司祭とはいえない足りない人間の私たち。にもかかわらず司祭として選んでくださった神の寛大さに感謝しよう。しかし司祭は一人歩きをしてはいけない。幼子が親から離れては生きていけないように、私たちはいつも主の顔を仰ぎ、イエスに繋がっていない。一人歩きは傲慢につながる」と司祭の生き方についての

短 信

▼大熊教会で堅信式
奄美市の大熊教会(栃尾泰英神父主任司祭)では、四月十九日(日)郡山司教を招き堅信式を行った。この日、堅信の恵みに浴したのは中高生を中心に女性五人、男性四人の九人。ミサ後には、司教を囲んで食事会もあり、堅信と司教を迎えた喜びでいっぱいとなった。

会と催し (5月)	
3日(日)	復活節第五主日
5日(火)	レデンプートル宣教修道女会来日五十周年ミサ・谷山教会・14時
9日(土)	宣教学校・ザビエル教会・13時30分
10日(日)	復活節第六主日
13日(水)	世界広報の日
14日(木)	レヒナ神父追悼ミサ・ザビエル教会・11時
17日(日)	主の昇天
19日(火)	典礼研修会
20日(水)	デイリーノ神父叙階記念(一九九八年)
21日(木)	教区巡礼委員会・教区本部・19時
24日(日)	デイリーノ神父霊名(聖ベルナルディーノ)聖マリア学園理事會・教区本部・10時
31日(日)	聖霊降臨の主日
	志布志教会献堂五十年記念ミサ
	オリブの会・教区本部・14時
	レジオマリエ・教区本部・14時
	タム神父叙階記念(二〇〇七年)

祈りの意向
【フベナ】薩来園のため(7~16日)
【祈祷の使徒会】世界共通・苦しんでいる人々
宣 教・使命に開かれて
日本の教会・平和憲法の尊重

+KABAYAN SEKSIYON+
"Kung Paano Ko"-Ang Tunay na Sukatan ng Totoong Pananampalataya

May isa lamang batayan kung paano maituturing na totoo ang ating pananampalataya: ang katauhan ni Hesus na Panginoon natin. Dalawang talatang binigkas ni Hesus sa Huling Hapunan ang magbibigay-linaw dito: "Isang bagong utos ang ibinibigay ko sa inyo: magmahalan kayo! **Kung paano ko** kayo minahal, gayon kayo magmahalan" (Jn 13:34, tgn 15:10, 15:12, 15:17). "Kaya kung hinugasan ko ang inyong mga paa, akong Panginoon at Guro, gayundin kayo dapat maghugasan ng mga paa ng isa't isa. Isang halimbawa ang ibinigay ko sa inyo upang gawin din ninyo gaya ng ginawa ko sa inyo" (Jn 13:14-15)

Bumubuo ng isang diwa ang dalawang talatang ito. Ibinibigay ni Hesus ang utos niya ukol sa pagmamahal, at isinagawa niya ito sa paghuhugas ng mga paa ng kanyang mga alagad. Hinahamon niya sila na tularan ang kanyang ginawa. **"Kung paano ko"**: ipinapahayag ni Hesus na siya ang huwaran, batayan at panukat ng "pananampalataya-sa-pagkilos." Ang mga simpleng salitang ito ay kailangang maging gabay natin sa ating mga pagpapasya at pagkilos sa bawat araw. Sadyang kay linaw nito! Sadya ring mahirap ngunit mapanghamon!

Kaya dapat natin mas palalilimin ang ating pananampalataya sa pag-aaral ng Banal na Kasulatan.

Katesismo sa "Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Orolfo)

貴島丈弥助祭の誕生を祝う

感動のマニラでの助祭叙階式

助祭叙階式に参列して

聖心教会 権頭 暁子

三月二十七日(金)、福岡経由で待ちに待った憧れのフィリピン、マニラに到着しました。渋滞に巻き込まれてホテルに着いたのは夜の九時を回っていましたが、無事到着したことに、一同ホッとしました。

二十八日(土)朝九時の貴島丈弥さんの助祭叙階式に参列するため、渋滞に遭わないようホテルを早々に出発し、期待と不安の入り混じる中、式が執り行われる「サンカルロス大神学院」に到着しました。すでに入り口周辺は大勢の人たちでいっぱいでした。その中に思いがけず、ベトナムに帰られたダウン神父様がいらっしやいました。これも神様のお導きでしょうか！

パイプオルガンの流れる中、聖歌隊の歌声とともにバラク枢機卿様の司式で、司祭団と一緒に丈弥さんとご両親が列に加わり入堂が始まりました。今回はマニラ教区から二人、アンティポロ教区から一人、鹿児島教区から丈弥さんと計四人の叙階式でした。

式では、枢機卿様から一人ひとりの紹介があり、丈弥さんの時は一段と拍手が盛り上がり、私たち出席している者も感動して胸が熱くなるほどでした。ご両親から丈弥さんに直接ストラとスプリが手渡しされ、それを枢機卿様がおかけになられて、新助祭の貴島助祭の誕生です。この光景は言葉では言い尽くせないほどの感動を私たちに与えてくれました。そして私たちは名残を惜しむ間もなく、次の目的地に出発です。



奄美からマニラに駆けつけた巡礼団

叙階式に参列した後は、高山右近の墓を見学し、バングレーパイプオルガン(竹製)で有名なラスピニヤス教会を巡りホテルへの帰途につきました。途中、明日の枝の主日を控え、道路は人、人で溢れかえっていました。二十九日(日)

朝、私たちはゴミサにあずかるため早々にホテルを出発し、サンアウグスティン教会を目指しましたが、教会の前はシユロの葉(バラスパス)を売る露天商がず

高山右近ゆかりの地での叙階式

聖心教会 朝木 一昭

かつて、領地も領民も碌もなげうって神への道を選んだ高山右近、追放されたマニラの地では、日本のキリスト者を迎えようと多くの市民が集まり大歓迎だったそうです。信じた道とはいえ、これまで邪教と罵られ、身を潜めたりしてきた右近は、長旅の疲れもやつと吹き飛んだことでしょう。今から四百年も前のことです。

その「ゆかりの地」での教区の神学生貴島丈弥さんの助祭叙階式に胸が弾みま

す。初めてのフィリピンは、人口約九千五百万人、カトリック教徒の数は八割強の七千九百万人というカトリック教国でした。

サンカルロス大神学校での四人の助祭叙階式は、信徒の祝福に満ち溢れたものでした。

助祭候補者それぞれが両親と連れ立って入堂され、約七十人の司祭団の中には小川神父様やダウン神父(かつて小宿教会)やサン

トス神父様の笑顔もありました。枢機卿のお話の中でも何

らつと並び、私たちも人混みにもまれながら二十ペソで買いましたが、残念なことに持って帰って来られませんでした。

この日は朝からひっきりなしにミサがあり、ミサが終わらないうちに次のミサにあずかるように信者たちが入ってくるため、通路は人が通れないほどでした。

度か丈弥さんの立派さが語られたのでしよう。祝福の拍手や温かい眼差しが私たちの席に向けられました。パイプオルガンと合唱の荘厳な演奏の中、叙階の儀が終わりました。その後の聖体拝領では、私は改めて貴島丈弥助祭からご聖体を拝領しようと、その列に並びました。思えば、昨日の朝は聖心教会で丈弥さんのためにミサがささげられ、今日はこのマニラの地で、ひとときわ立派に成長され、新しい助祭服姿の彼からご聖体を頂く…まさに感激でした。神に感謝。

ミサ終了後の記念写真の撮影は、地元出身の三人をも凌ぐほどに、彼の周りを多くの信徒が取り囲み、嬉しい祝福攻めにあっておい

ました。六年間愛されていたのであろう彼の笑顔も満開です。

翌日、巡礼した石造りの教会群は、それぞれに威容を誇り、歴史の重みを感じられました。

大航海時代からのカトリックの足跡に、思わず襟を正すばかりです。枝の主日と重なり、二、三千人は

ミニコ修道会の宣教師が持つて鹿兒島の甌島に渡り、その後またマニラに持ち帰ったというご像が展示されていました。

その後、キアボ教会、バクララン教会、マラテ教会を巡り、私たちの旅は感動と喜びのうちに幕を閉じました。聖週間に入っていたからでしょうか、どの教会も聖堂に入れないほど人々で溢れかえっていました。

収容できるであろう各聖堂は押し合うばかりの混雑。午前中だけでも四、五回のミサがささげられるとのこととで、驚きでした。そして今年一月に教皇様がこの地を訪問された際には、歓迎集会に何と六百万人もの信徒が集まり、歴史的な人出となったそうです。

この記念すべき年の記念すべき地で晴れの助祭叙階式。まさに感動でした。貴島助祭のこれからの働きを切に祈りながら、またいつの日か訪ねてみたいマニラを後にしました。

カトリック通信講座

<受講料> (教材費・税込)
T001~T004 各4,800円
T005~T007 各5,300円

<全7講座>

- T001: キリスト教とは=キリスト教の概要
- T002: 聖書入門〔I〕=四福音書(イエスの生涯)
- T003: キリスト教入門=秘跡や信仰生活(洗礼準備にも)
- T004: 神・発見の手引=人生、自然を通して神へ
- T005: 聖書入門〔II〕=使徒言行録・書簡・黙示録
- T006: 幸せな結婚=結婚の意味や愛、幸福
- T007: 生きること・死ぬこと=命に関する問題

<お申込み>

郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001~T007)をご記入のうえ、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送り致します。

振替口座番号: 00170-2-84745
加入者名: オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ>

オリエンズ宗教研究所カトリック通信講座
Tel: 03-3322-7601 Fax: 03-3325-5322
URL: http://www.oriens.or.jp

*詳細はホームページをご覧ください。

文芸

俳句

- 吉野教会 徳永ノブ子 睦まじくよるこび唄う復活祭
- 春雷のごろごろ鳴って目覚めかな
- 国分教会 政 ノブ子 花吹雪礎祝い宴かな
- 百合の花懐し御堂別れの日
- 奄美市 林 常広 妻の霊よみがへりつつ三回忌
- 出水教会 遠竹 睦郎 磔刑のキリスト像に祈る朝
- キリストのゆるしの秘蹟想ふ日日
- 純心学園 山頭 信子 土手に這うペロニカの花四旬節
- 百鳥や梢で飛び交う卒業歌
- 入学の子の袋には刺しゅうあり
- 鹿兒島純心 川上 和 「アレレヤ」と小鳥も歌い桜舞う

短歌

- 鹿兒島純心 川上 和 一つの世もみ母と仰ぐマリアさまさつき
- の空に清く輝く
- 鳴池教会 前田 儀子 百人の麗子像を描きし劉生は三十八歳の若さにて逝く
- 出水教会 遠竹 睦郎 磔刑のキリスト像を眺めつつ両手を合わせ祈り捧げぬ
- 大口教会 森 博伸 花言葉吾が手にありしフリージア汝れが
- こころの言葉は如何に
- 大笠利教会 稲 牛憲 たはやすくころびやすくて菜園にころび
- て苦笑しつつ立たん
- 溝辺教会 松元 史江 十字架の道行辿る丘に咲く小さき花々その名は知らず